

#### ④ 戦後処理問題に係る施策の概要

	恩給欠格者問題	戦後強制抑留者問題	在外財産問題
1. 問題の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○旧軍人軍属であって年金恩給等を受ける権利を有しない者の処遇の問題</li> <li>○関係者 253万人 (生存者)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○戦後、ソ連又はモンゴルの地に抑留され、強制労働に服した者の処遇の問題</li> <li>○関係者 57.5万人 (うち生存者32万人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今次大戦の終結に伴い本邦以外の地域から引揚げた者の処遇の問題</li> <li>○関係者 206万人 (生存者)</li> </ul>
2. 従来の関係施策の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○軍人恩給の復活 (昭和28年8月) <ul style="list-style-type: none"> <li>・加算年制度の廃止</li> <li>・兵の一時恩給制度新設 (引き続く実在職年7年以上)</li> </ul> </li> <li>○国家公務員共済組合制度の発足 (昭和34年) <ul style="list-style-type: none"> <li>・恩給制度と雇用人を対象とする旧共済年金制度を統合</li> </ul> </li> <li>○戦地戦務加算等の復活 (昭和36年～)</li> <li>○引き続き実在職年3年以上の兵に一時恩給支給 (昭和50年8月)</li> <li>○断続実在職年3年以上の旧軍人に一時金支給 (一律15,000円) (昭和53年10月)</li> <li>○軍歴通算問題に関する研究 (座長 馬場敬之助) (昭和55年9月) <ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和57年4月同報告——「現在の共済年金制度において、旧軍人期間を通算しているのは、公務員の年金制度を統合するという目的のために恩給公務員であった期間を共済年金に引き継いだ結果であり、軍歴期間を一般的な社会保障制度である厚生年金保険及び国民年金に通算することは適当でない。」</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○未復員者給与法 (昭和22年) 及び特別未帰還者給与法 (昭和23年) による俸給、扶養手当、帰郷旅費等の給付</li> <li>○戦傷病者戦没者遺族等援護法による障害年金、遺族年金の支給 (昭和27年4月)</li> <li>○未帰還者留守家族等援護法による留守家族手当、帰郷旅費等の支給 (昭和28年8月)</li> <li>○恩給法による公務扶助料、公務傷病恩給等の支給 (昭和28年8月)</li> <li>○海外抑留加算の新設 (昭和40年10月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○引揚者給付金支給法の制定 (昭和32年5月) <ul style="list-style-type: none"> <li>・終戦時の年齢に応じて28,000円～7,000円の給付金 (年利6分、償還期間10年の記名国債) を支給</li> <li>・遺族には、ほぼ同額を支給</li> <li>・支給人員約319万人、国債発行金額約463億円</li> </ul> </li> <li>○引揚者等に対する特別交付金の支給に関する法律の制定 (昭和42年8月) <ul style="list-style-type: none"> <li>・終戦時の年齢に応じて160,000円～20,000円の特は別交付金 (在外年数8年以上の者については、10,000円を加算) の特別交付金 (無利子、償還期間10年の記名国債) を支給</li> <li>・遺族には、7割を支給</li> <li>・支給人員約312万人、国債発行金額1,635億円</li> </ul> </li> <li>※「党・政府の了解事項 (昭和42年6月27日) <ul style="list-style-type: none"> <li>・本施策により在外財産問題あるいは引揚者に関する措置は一切終了したものとする。</li> <li>・本件措置をもってあらゆる戦後処理に関する諸措置は一切終了したものとする。</li> </ul> </li> </ul>
3. 特別基金による事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○書状等贈呈事業 (平成19年3月末受付終了) <ol style="list-style-type: none"> <li>①外地勤務経験者で加算を含む在職年3年以上又は実在職年1年以上の者 <ul style="list-style-type: none"> <li>・書状、銀杯の贈呈 (在職年3年以上の者 平成元年度～) (実在職年1年以上の者 平成7年度～)</li> <li>・新規慰藉事業 (慰労の品の贈呈) の実施 (平成2年度～ 在職年3年以上の者のみ)</li> </ul> </li> <li>②内地のみ勤務経験者で加算を含む在職年3年以上又は実在職年1年以上の者 <ul style="list-style-type: none"> <li>・書状の贈呈 (在職年3年以上の者 平成8年度～) (実在職年1年以上の者 平成12年度～)</li> </ul> </li> <li>③ ①又は②の対象と成り得た死亡者 <ul style="list-style-type: none"> <li>・書状の贈呈 (平成12年度～)</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>○特別記念事業 (平成19年4月～) <ul style="list-style-type: none"> <li>慰労品の贈呈 <ul style="list-style-type: none"> <li>・外地勤務経験者：5万円相当の慰労品</li> <li>・内地のみ ”：3万円相当の ”</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○その他 (労苦調査等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○書状等贈呈事業 (平成19年3月末受付終了) <ol style="list-style-type: none"> <li>①帰還者に対する処置 (昭和63年度～) <ul style="list-style-type: none"> <li>・恩給等非受給者——書状、銀杯、慰労金 (10万円) の記名国債) の贈呈・支給</li> <li>・恩給等受給者——書状、銀杯 (三つ重ね) の贈呈</li> </ul> </li> <li>②抑留中死亡者に対する措置 (平成元年度～) <ul style="list-style-type: none"> <li>・書状、銀杯の贈呈</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>○特別記念事業 (平成19年4月～) <ul style="list-style-type: none"> <li>・慰労品 (10万円相当) の贈呈</li> </ul> </li> <li>○戦後強制抑留関係者特別慰藉基金 (5億円) に対する助成 (平成元年度～)——慰霊祭、慰霊訪問事業の実施</li> <li>○その他 (労苦調査等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○書状等贈呈事業 (平成19年3月末受付終了) <ul style="list-style-type: none"> <li>・書状の贈呈 (平成3年度～)</li> </ul> </li> <li>○特別記念事業 (平成19年4月～) <ul style="list-style-type: none"> <li>・慰労の品 (銀杯) の贈呈</li> </ul> </li> <li>○その他 (労苦調査等)</li> </ul>